

しのぼず自然観察会より 2024-2 2024.02.01

2024年2月の活動 不忍池 定点観察 2月11日(日)



集合：午前10時 不忍池 蓮池南西端
 緑の小旗あり（野外ステージ西側、湯島天神下交差点寄り）

今回は雨天中止

持物：筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具
 （マスク、敷物、昼食、防寒衣）

解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚

参加費不要 非会員の参加も歓迎

水質（COD）簡易測定も予定

2024年1月の活動 不忍池定点観察1月21日(日)は雨天のため中止しました。

越冬鳥調査で、不忍池を担当しました(2024年1月18日(木)調査)

野鳥の会東京の研究部が1月中に行なっている越冬鳥調査に協力して、小川潔が1月18日に不忍池の野鳥調査をしました。

1か月前の12月24日に行ったしのぼず自然観察会の恒例調査結果と比べ、水鳥類ではカルガモとオオバンが少なかったほかは大差ありませんでした。なお、動物園池でオカヨシガモ雄1、雌1が見られました。その他の鳥では、曇天で寒い朝のためいつもより来園者が少ないせいでしょうか、ユリカモメが激減、また、スズメ、ハシブトガラスの数がいつもより少なくなっていました。動物園池のカワウのコロニーでは、各巣にヒナか若鳥が目立ちました。

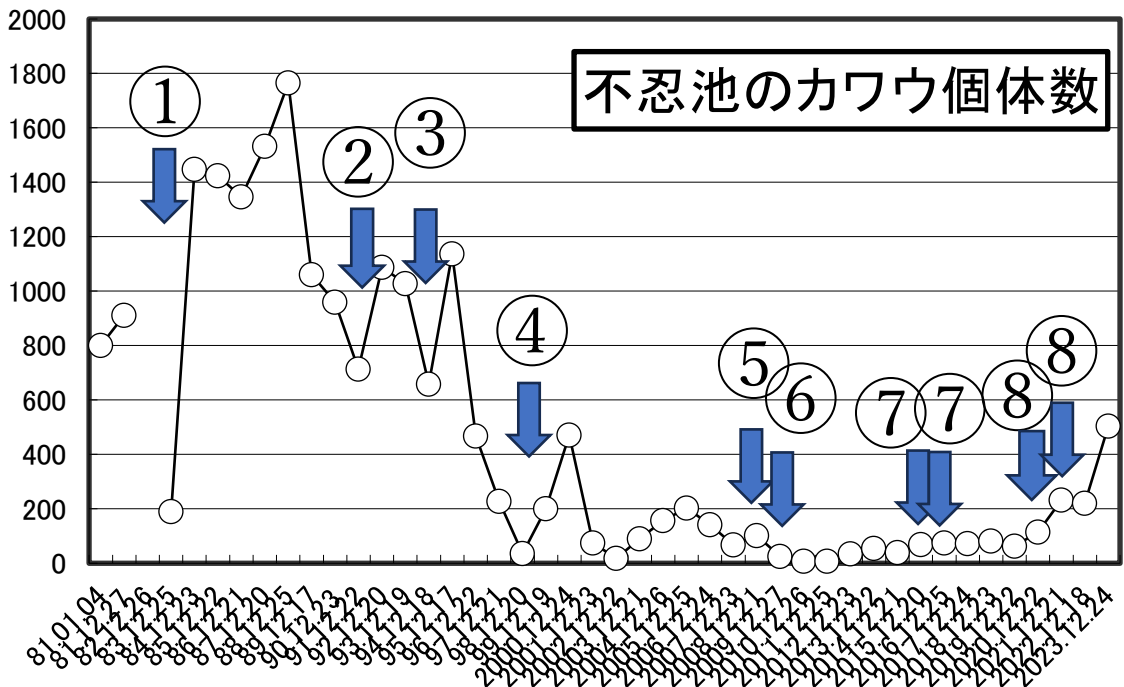
キンクロハジロ	130	カワウ	445	エナガ	3
オナガガモ	58	ダイサギ	2	ハシブトガラス	5
カルガモ	7	コサギ	2	ドバト(カワラバト)	167
ホシハジロ	3	アオサギ	9	スズメ	47
ハシビロガモ	1	カイツブリ	2	ムクドリ	18
オカヨシガモ	2			ヒヨドリ	34
オオバン	16	バン	1	メジロ	8
ハクセキレイ	3	カワセミ	1	キジバト	2
ユリカモメ	29	セグロカモメ	1		

不忍池のカワウ 個体数変遷から 小川 潔

P1で紹介したように、2024年1月18日に、不忍池でカワウ445羽を数えました。3週間ほど前の12月24日のしのばず自然観察会定例調査では504羽でした。1割ほどの差異がありますが、雛を餌を運ぶため成鳥の巣への出入りが頻繁な時期なので、誤差の範囲と考えるべきでしょう。

ところで、昨年1月26日にも越冬鳥調査をしましたが、その時のカワウは260羽でした。また、2022年1月21日には226羽でした。2023-24年冬季の個体数は、これまでより増加したと感じます。

1981年からの定例水鳥調査におけるカワウの個体数を図に示しました(1991年のみ1月と12月、他は12月調査、1982年12月は欠測)。



注) 上図中の番号は、次の工事等の時期を示します、①は動物園池と蓮池の浚渫、②は動物園池浄化装置設置、③は動物園池の別の場所での浄化装置設、④は動物園池浚渫、⑤はアイの森造成のための動物園池一部改造、⑥は動物園池の松島にあるカワウの巣撤去、⑦は動物園西園改造による工事、⑧はコロナ禍による動物園入園制限予約制実施。

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔 方
 1975年創立 電話 03-3828-8775 URL:<http://sinobazu.extrem.ne.jp>
 郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

2022年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ

1983年の浚渫工事によって多くのカワウが不忍池を離れ、その後一部復帰して、動物園池の島に設置された擬木に営巣して個体数が増加しました。1990年代の動物園池浄化装置設置工事で一時的な減少はありましたが、1996年の動物園池浚渫工事よりカワウの個体数が減少の一途をたどり、2002年には18羽までになりました。浚渫工事の際、動物園池の半分の水を抜く工法が鳥には脅威だったのかも知れません。



写真:不忍池(動物園池の松島)のカワウのコロニー
(2024.01.31撮影)

その後、カワウは200羽台に回復しましたが、2009年に動物園によって松島のカワウの巣が撤去され2010年には7羽にまで減少しました。2015-16年の動物園大改造工事は陸上だけだったので、カワウの個体数への影響は確認できませんでした。続いてやってきたのがコロナ禍でした。2020-21年は休園期間に続いて入園の予約制が行われ、入園は正門に限られ入園者数が減少し、入園者の関心がパンダに集中したせいも、動物池がある西園への来場者数が極端に減りました。おかげで、カワウへの動物園による干渉は止まったようです。コロナ禍の時期、カワウの個体数は増加に転じていきました。動物園もパンダの展示場移転と赤ちゃんパンダの飼育・展示に追われ、カワウどころではない状態になったことが、カワウから見れば幸したと言えそうです。

野鳥の会東京の研究部が行なった繁殖鳥調査に協力して、小川潔が2023年5月10日と6月13日に不忍池の調査をしました。カワウの個体数はそれぞれ384羽、213羽でした。2023年は8月、9月と動物園池のカワウコロニーは妙に静かで、カワウの動きは目立ちませんでした。11月になるとコロニーに活気が戻り、巣材をはこぶカワウの姿も頻繁に見られました。この時点で、ヒナの孵化、子育て期間に入っていたようです。2023年12月24日と2024年1月18日の調査で500羽前後のカワウを数えられたのは、繁殖期最中で、ヒナ・若鳥が多く含まれていたのでしょう。生息地の平穏があつての繁殖・子育てですね。

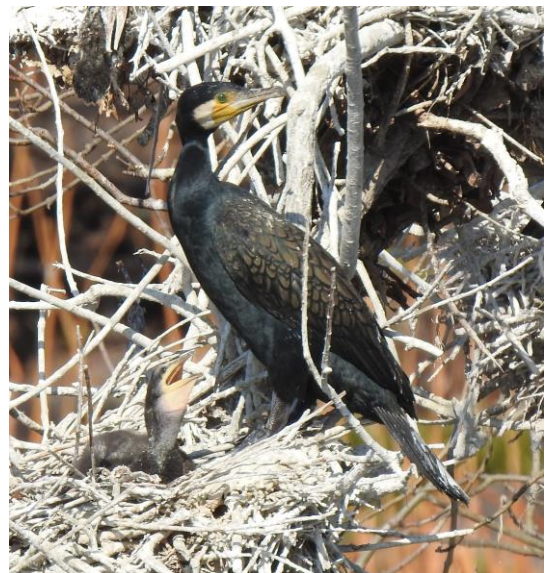


写真:カワウの成鳥(上)とヒナ(下、まだ産毛に覆われている)(2024.01.31撮影)